

子宮頸がん検診を受診される方へ

【がん検診の目的】

がんを早期に発見し、治療することで、がんによる死亡を減らすことを目的としています。がんは早期発見・早期治療で約 9 割が治ると言われています。しかし、早期のがんではその多くが無症状です。がん検診は自覚症状のない時期から受けることで、がんを進行していない状態で発見することができます。

【がん検診のメリット・デメリット】

がん検診を受けることには、がんを早期に発見できるというメリットがありますが、デメリットもあります。十分に理解したうえで検診を受けましょう。

〈メリット〉

①早期のがんを発見でき、救命の効果があります

早期であればあるほど、治せる可能性は高く、軽い治療で終わることができる場合が多いため、身体的・経済的な負担も少なく済みます。早期発見と適切な治療の開始、それに伴う救命が最大のメリットです。

②がん以外の病気も見つけることができます

がん検診では早期のがんだけでなく、がんになる前段階の病変（具体的にはポリープや潰瘍、異型上皮など）が見つかる場合もあります。こうした病変が軽い場合には経過を観察し、必要時は治療をすることで、がんになることを防ぐこともできます。

③安心して生活ができます

がん検診を受けて、「異常なし」と判定されれば、安心して生活することができます。しかし、2 年に 1 回の定期的な受診を継続することが重要です。

〈デメリット〉

①結果が必ずしも正しいというわけではありません

がん検診で必ず、がんや前がん病変を見つけられるわけではありません（偽陰性）。また、がんや前がん病変でなくてもがん検診の結果が「要精検」となる場合もあります（疑陽性）。

②不必要な治療や検査を受けてしまうことになる可能性があります

検診で見つかるがんには、その後進行がんにならない等、生命に影響しないがんもあります（過剰診断）。現段階では、このようながんと普通のがんを区別することができないため、手術などの治療が行われますが、本来不要な治療だった可能性もあります。

また、偽陽性だった場合にも精密検査を受ける必要があり、結果的には不要な検査を受けることで、身体的・心理的にも負担がかかる場合があります。

③検査によって身体に負担がかかる場合があります

子宮頸がん検診の場合、痛みや出血が生じる場合があります。

【子宮頸がん検診について】

細胞診による子宮頸がん検診は、子宮頸がんの死亡率・罹患率を減少させる効果があります。わが国では女性のがんの中でも子宮頸がんに罹患する人が多いです。近年、罹患者数・死亡者数ともに増加傾向にあり、特に30～50歳代の若年層での罹患率・死亡率が増加傾向にあります。

検診で早期に発見して治療することで、子宮頸がんにより亡くなることを防ぐことができます。また、前がん状態を見つけることにより、子宮頸がんの罹患・死亡を防ぐことができます。検診は自覚症状がないうちに受けることが大事ですので今後も継続的に受診をしましょう。

【検診の結果について】

- 検診結果は「異常なし」「要定検」「要再検」「要精検」「要治療」のいずれかで判定され、結果は益田市に報告されます。
- 「要精検」となった場合には、必ず精密検査を受ける必要があります。
- 精密検査としては、コルポスコープ（膣拡大鏡）を使った組織診や細胞診、HPV検査など検診結果に基づいて実施されます。
- 精密検査結果は益田市に報告されます。また他の医療機関に精密検査を依頼した場合は、検診機関と益田市もその結果を共有します。

【お問い合わせ先】

益田市役所福祉環境部健康増進課

TEL：0856-31-0214

FAX：0856-23-7134